

研究課題（テーマ）	多職種連携による早期離床・リハビリテーションにおける ICU 看護師の実践評価スケールの信頼性・妥当性の検討		
研究者	所属学科等	職	氏 名
代表者	看護学部看護学科	准教授	河相てる美
分担者	看護学部看護学科	講師	二本柳圭
		講師	寺内英真
		助教	竹口将志
研究結果の概要			
【目的】 手術後に集中治療室（Intensive Care Unit:以下 ICU）に入室する患者は、侵襲度が高く様々な合併症の発症リスクがある。術後 ICU に入室する患者がひとたび合併症を起こせば、ICU 在室日数も長くなり、集中治療後症候群（Post Intensive Care Syndrome: PICS）となるリスクも高い。だからこそ早期からのリハビリテーションによって回復を促進するケアが必要である。そこで ICU 看護師の視点から多職種連携による術後患者の早期リハビリテーションの現状を明らかにし、実践項目を作成することを目的とした。 【方法】 多職種連携による早期離床・リハビリテーション実施のリーダー的役割を担う ICU に勤務する看護師 6 人にテーマに関する半構造化面接を実施した。インタビュー内容を質的記述手法により統合し、看護実践を抽出した。ガイドラインや他の文献を参照し、多職種連携による早期離床・リハビリテーションにおける ICU 看護師の実践内容の質問項目を検討した。 【結果】 質的記述手法により統合した結果、【多職種連携の質を高める】【術後すぐに関わる工夫】【連携の要】といった看護実践がなされており、寝たきりにしておくことで生じる【リスクの共有】の重要性、個々の看護師の課題として【スキルアップ】、そして、ICU 退室後も【横断的活動】ができる体制づくり、【多職種共通のチェックリスト】によりリハビリテーションの実施をしやすくすること、更にリハビリテーション継続のための【継続システム】の必要性への課題が示された。多職種連携による早期離床・リハビリテーションにおける ICU 看護師の実践内容の質問項目を検討した。			
今後の展開			
ICU 看護師の実践内容について、多職種連携による早期離床・リハビリテーションに携わる医師や理学療法士などの他職種や他の施設の ICU 看護師に調査を依頼し、質問項目を作成する。全国の ICU を有する病院に勤務する ICU 看護師を対象に調査し、信頼性・妥当性を検証する。			